

本校は昭和に約15年間 平成に30年間の歴史をもつ学校です。新しい時代の始まりにあたり、改めて歩みを振り返ってみます。

知的障害児の全員就学・義務制と絡んで本校は発足した。西多摩の奥地や、農家の片隅にいて学校にいけなかった過年齢の子供たちは、スクールバスに乗って喜んで登校してきた。ある子は親がまったく歩けない、何も出来ない子だとあきらめていたが、先生の手引かれて歩き始めた我が子の姿を見て驚いた。その子は体を大きく揺すってゆっくり歩くが、「僕も歩けるんだぞ!!」と満面に喜びと自信を表して、私にも手を振ってくれた。…この子らの教育の始期や適期を決して逃してはならない。その能力を過小評価してはならない。  
(第2代 大庭伊兵衛校長 創立30周年記念誌より)

昭和48年	48.12.7	東京都立川養護学校羽村分校設置(知的障害対象)
	48.12.18	東京都立川養護学校長 荒井喜夫 就任、東京都立羽村養護学校開設準備担当を命ぜられる
昭和49年	49.4.1	東京都立羽村養護学校設置、東京都西多摩郡羽村東小学校にて開設、小学部2学級20名
	49.4.16	開校式並びに入学式
昭和50年	50.4.11	建築(校舎等)仮引き継ぎを受ける
	50.7.9	プール、体育館および第2期工事、新校舎使用開始
	51.3.18	小学部第2回 中学部第1回卒業式ならびに第1回学芸会
昭和51年	51.4.14	第3期工事新宿舍(延964,113㎡)仮引き継ぎ受ける
	51.5.27	校舎落成記念式挙行
昭和52年	53.3.18	小学部第4回、中学部第3回、高等部第1回卒業式
昭和53年	53.4.1	第2代校長 大庭 伊兵衛 就任
	54.3.17	新設運動場完成
昭和54年	55.2.20	校章制定
昭和55年	55.5.28	校歌制定
昭和56年	57.3.27	校旗制定
昭和57年	58.3.7	体育館倉庫工事完成引継を受ける



校章の由来・・・  
親と子、あるいは子供同士、または教師と児童・生徒とが手を取りあい、たがいに助けあいはげましあっている姿を図案化したものである。

国の養護学校義務化に先立つこと5年、東京都教育委員会は、昭和49年に障害児の希望者全員就学の方針を出しました。この方針を受け、東京都は条件整備のため3校7分校の養護学校の新設をいたしました。本校はこの3校のうちの1校で西多摩地域を通学区域とする養護学校として開設されました。小学部2学級20名で羽村東小学校内で歩み始めました。昭和49年4月16日、開校式並びに第1回入学式が行われ、翌昭和50年には新校舎も一部完成し、中学部、高等部も設置し14学級94名で現在の地に移り、教育活動を行うことになりました。  
(第9代 岩井雄一校長 創立30周年記念誌より)



旧校舎と松の木

現在の校舎



開校40周年記念誌



東京都立羽村特別支援学校

本校は、平成8年の都立あきる野学園の開校により、通学区域が見直され、過密化を一旦解消しましたが、その後の都立特別支援学校の再編整備や平成19年の特別支援教育への移行などを背景に、全校児童・生徒数が、平成16年の206名から、本年度の382名と倍近い伸びを示し、知的障害特別支援学校としては、都内最大規模を有する学校となりました。

この10年間には、東日本大震災がありました。震災を経て、特別支援学校は多くの地域の皆様に守られていることが確かめられました。また、社会が抱える様々な課題が明らかになるとともに、どのような困難にめぐりあっても、希望の灯をともし続ける、支えあい、助け合うという、私たちの社会が古くから大切にしてきた良さにも気付かされました。

(第12代 杉本 久吉校長 創立40周年記念誌より)

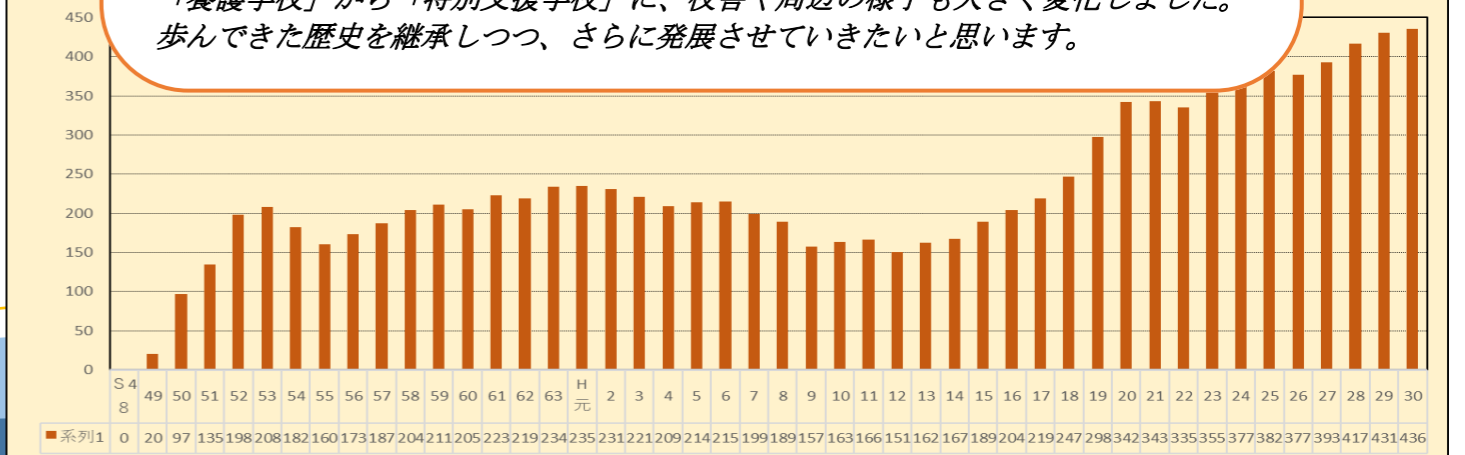


校舎の大規模改修について

平成25年12月をもって、本校の施設・設備の工事が全て竣工しました。3階建の新しい校舎には3階にプール、1階に校舎棟と連結された体育館の他、小・中学部用に多目的室が設けられました。また、高等部には新校舎の竣工と同時に発足した「食品加工班」のための食品加工室をはじめ、各作業班の特別教室等が各階に配置されています。屋上には太陽光発電用のパネルやハーブ園グラウンドの周囲にはマラソンコースも整備されました。また、本校の特色の一つであった松林も極力残すように、農園芸班の畑・果樹園や前庭の遊具が配置されています。

(創立40周年記念誌より)

20名でスタートした本校は、現在435名の児童・生徒が通う学校になり、名称も「養護学校」から「特別支援学校」に、校舎や周辺の様子も大きく変化しました。歩んできた歴史を継承しつつ、さらに発展させていきたいと思いをします。



児童・生徒数の変化